



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

障害者を位置づけた哲学的人間学の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹内, 章郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/82

はしがき

本研究は、第一に、近代的人権論の形式性の衣鉢をつぎ、プライバシー対パターンリズムとして表面化する権利論と、人格形成や教育として具体化し生命の価値の評価に関わる生命の質論——内容的には優生学にも触れる——という、これまで不整合なままに放置されてきた二つの理論・議論を整合的に把握し、更には、従来、障害者福祉等々として主題化されてきたにすぎない障害者問題を、本格的に哲学ないし倫理学の内に位置づけて、障害者倫理学・障害者哲学とでも言うべき新たな分野を開拓して哲学・倫理学の刷新を図ろうとした大きな研究である。本研究の成果を、いま少し具体的に略記すれば、以下のようなものである。

- (1) 本研究により、障害者(障害を持つ人)の存在と生命自体とを、強力に肯定するQOL(生命の質)の新たな本質的なカテゴリーを捉えることができた。
- (2) また、新たな優生学、すなわち商業的優生学に関する本質的なカテゴリーを把握し、またこの優生学の新たな諸問題も提示しえた。その結果、障害者を尊重しまたケアするオリジナルな観点をも捉えることができた。同時に、新自由主義的な不平等概念を批判することができ、また、能力や他者の援助をも機会概念に含み得る新たな機会の平等論も特定することができた。
- (3) こうした主題に関する研究によって、障害者差別に反対する議論は、徐々に、新たなものに革新されつつある。というのは、この研究は、かの差別の内的な本質——つまり、能力不全やハンディキャップの近代主義的観念——とこうした差別の原因を明らかにしてきたからである。
- (4) 通常倫理学と障害者を位置づけた新たな哲学的人間学との関係を明らかにすることを通じては、また、二種類の「何故」を問う倫理的問いに関する根本的な観念を提供することができた。
- (5) この二種類の「何故」とは、事柄の原因を問う「何故」と、事柄の正当化もしくは非正当化を図る「何故」である。

もちろん、本報告書中で示した以上の本研究の成果は、大きな研究過程における一里塚程度のものであり、私は、今後も、この研究の可能な限りの豊穡化を目指して努力するつもりである。

なお、本研究の実施に関しては、補助金の大半は図書購入に当て、一部は、当該研究の各部分に関する先進的成果を挙げている論者(この点に関しては、一橋大学社会学研究科の古茂田宏教授及び関東学院大学経済学部教授渡辺憲正教授には、特にお世話になったのでここで感謝しておきたい)から、種々の知見を摂取するために、旅費にあてた。また、研究成果を纏めた本報告書は、「研究成果報告者の作成・記入方法」で「当該研究計画の成果を既に学会誌等に発表している場合には、その印刷物をこの報告書に代えても差し支えない」と認められていることに従って、本研究期間中に公刊された学会誌等の抜き刷り等々を集成したものである。ただし、別途単行本として刊行したので本報告書には含まれていないが、竹内章郎『いのちの平等論——現代の優生思想に抗して』岩波書店(2005年2月刊行)の中にも、本研究成果の一部が含まれていることを付言しておく。